

「介護・認知症なんでも無料電話相談」まとめ

2015年12月12日

中央社会保障推進協議会

はじめに

中央社保協は介護保険制度開始後10年目の2010年から11月11日（いい介護の日）に「介護無料電話相談」を実施してきました。5回目となる2015年11月11日（水）、「介護・認知症なんでも無料電話相談」を全国18都道府県で実施しました。14都県はフリーダイヤル、青森・岡山・京都・北海道は独自回線で実施しました。相談員には昨年につづき、「認知症の人と家族の会」のご協力を得ました。中央では東京都支部から相談員として代表、副代表が参加し、電話相談に対応していただきました。全国でも各県の「家族の会」が相談員として参加していただき、認知症への相談対応がスムーズにすすみました。2015年4月から「特別養護老人ホーム入所は原則要介護3以上」など介護保険制度の対象者が狭められるもとで寄せられた相談は昨年よりいっそう深刻な内容でした。

以下、中央に寄せられた相談から深刻な介護現場について報告します。

1、全国で254件の相談に対応

当日は朝10時から夕方6時まで、介護福祉士、MSW、ケアマネ、ヘルパー、看護師と「認知症の人と家族の会」相談員が電話で寄せられる相談に応えました。1時間以上の対応や再電話など、悩みの深さを実感する電話もありました。「どこに相談したらいいかわからない」の問い合わせや、「話を聞いてもらえてほっとした。また元気でがんばれる」と孤独な家族介護の実態が改めて浮きぼりになりました。

相談は、全国で254件、中央には15都道府県から68件の相談が寄せられました。その中で「認知症」に係る相談は14件で21%でした。

2、相談者の年齢など

中央の電話に寄せられたのは15都道府県から68本の電話でした。首都圏からは各県での対応があったので件数は少なく、68本の電話の50件は東京23区、三多摩地域、島からの相談でした。相談者は家族からが57件84%でした。本人からの相談も8件12%でした。性別では女性が44人で65%でした。男性からの相談は24件35%でした。

年齢別では、60代が20人で29%と一番多いですが、30代から80代

まで各年齢層からの相談がありました。60～80代の相談は37人と54%半数でした。相談者の8割が家族で、30～80代まで幅広い年代からの相談がありました。本人からの相談は、「親を介護し見送ったその後の暮らしかた」「介護保険の利用法」などでした。

3、相談内容から見える深刻な実態—相談事例から

相談の内容で強調したいのは、2015年4月からの介護保険制度改定によるもの、介護と仕事の両立での悩み（対応してくれる施設が無い）、15年が経過したのに「介護保険はどうしたら受けることができる」という相談があったことです。また、「介護の社会化」といわれながら家族に大きな負担が強いられている現実があることです。

1) 施設利用料の負担が重い

事例(14)東京都：82歳妻、有料老人ホーム入所中の費用（月42万円）がかかりこの先どうしたらよいか。自身も持病有。7年前特養申込み（当時要介護1）したが100人待ちと。いま要介護5。

事例(38)東京都：足の悪い父と2人暮らし。母は大脳性皮質基底核変性症により寝たきり、目を動かせる程度で有料老人ホーム入所中。月30万の負担が大変。両親の年金をほとんど使ってしまい生活圧迫。自らも障害があり働いていない。なぜ入院できないのか？有料老人ホームが安くならないか？

事例(62)東京都：85歳父、要介護3、有料老人ホームに入所。被ばく手帳で医療費は免除。利用料を安くする方法はないか？

2) 家族の崩壊へ

事例(21) 82歳母要介護1、認知症なし、足が弱い。一人娘。3年前より母の家で同居。母親の性格きつく一緒に同居した夫がストレス大。夫の親のマンション空き家。夫がでていくかも。夫と別れたくないし母の面倒もみたい。板挟みである。

事例(35) 要介護3、70代後半の脳梗塞の夫をひとりで介護。どこか預かってくれる施設はないか？自分の時間が全くとれない。

事例(60) 独居の父は老健入所中。母は特養は暗くて入れたくないと。もうすぐ結婚するが、父のことが心配。低年金で自分が扶養。こども欲しいが父のことが心配

3) 仕事が続けられるのか（介護離職へ）

事例(1) GHに入所4年目の87歳母親。月1回は母のマンションで外泊。最

近認知症が進行。来春、姉夫婦と2世帯住宅建設予定。その機会に母を引き取りたいと考えているが、知人たちは反対。仕事はフルタイムを続けたい。アドバイスを欲しい。

事例(66) 母認知症で徘徊し崖から落ちて肋骨骨折。退院後は、会社の協力もあり自宅に仕事を持ちこんで仕事と母の介護を両立させている。自身の出張中は妻が介護。疲れて離婚話も。特養は3カ月～1年待ち。ショートも無理。老健はないので兄の住む神奈川か弟の住む千葉への移動を考えているがまちがっていないか？自分の家族を大事にしたい。妻は父も看取ってくれ感謝している。ケアマネも親身になってくれるが。

4) 本人からの相談

事例(12) 65歳、〇〇市で老人ホームなどで掃除の仕事。職員や利用者もいい人が多く役に立ちたい。高齢で求人も断られることが多い。どうしたらいい？

事例(24) 60代、両親を10年介護。独身。介護している時はヘルパーなどと会話はあったが今は何もない。10年地域と交流なかったので誘いもない。1年振りに保健師が一人暮らしの見守りに訪問したが玄関先で帰った。介護貧乏。ヘルパーに来てもらいお茶でも飲みたい。話したい。鬱になってしまう。どうしたらいいか？

5) 制度への意見

事例(15) 母特養入所中。父は老健、3か月に一度自宅へ戻らなければならない。自宅は段差で介護できず老健からショート往ったり来たり。その都度薬を取りに行ったり、受診時付き合おうが自身も仕事しながらきつい。包括もケアマネも話を聞くだけで何もしてくれない。医療保険・介護保険と縦割りの運営は国民にとって不利益でしかない。

事例(36) 50歳から母親の介護20年やって102歳で看取った。妹には頼めずひとりで介護したためストレスで大腸がん、前立せんがんになって治療費がかかり大変だった。家族で介護する大変さを国はわかっていない。(相談者も厚労省の元役人)

事例(55) 昨年8月に妻が老健入所。昨年施設職員8人が退職、入職は7人でケアマネは入職せず。定員は変わらないため妻の処遇も低下。どこに相談したらいいか？

6) 被災地から避難しての悩み

事例(68) 福島から大阪に避難し4年8カ月。親の介護は2年半目。要介護2、

両親と3人暮らし。大阪のおばちゃんのノリについて行けない。介護で疲れているが休養取れず相談相手もない。

4、今回の「電話相談」から、2015年の介護報酬の改定、介護保険制度の改定は利用者、家族に必要な介護サービスが受けられない状況であることが明らかになりました。私たちは緊急に以下の改定を求めます。

- 1) 必要な人が必要な介護サービスを受けられるように、介護保険の見直しによる介護サービスの利用制限、費用負担の引き上げを中止し、必要な人に必要なサービスが保障されるよう制度の大幅な改善をおこなうこと
- 2) 介護報酬を大幅に引き上げること。報酬改定がサービスの利用に支障をもたらさないよう、利用料負担の軽減など必要な対策を行うこと
- 3) 国の責任で、介護従事者の確保・処遇改善のための施策を早急に実施すること
- 4) 特別養護老人ホームの建設のための公費助成を拡大し、必要数の建設をすすめること
- 5) 低所得者への保険料軽減を早期に実施すること
- 6) 以上を実現するために、介護保険財政に対する国の負担割合の引き上げをふくめ、必要な財政措置を講じること